

いけ花を子どもたちと未来に伝えていくために…

草月流初代家元直門 創作華道家師範

川村 晃仙 さん(今市本町)

子どもたちが「いけ花」の歴史や実技を楽しく学ぶ「日光市こどもいけ花教室」を主催して今年で21年、そして自身の創作活動50年を迎えた、創作華道家師範の川村晃仙さんにお話を伺いました。

華道家になつたきっかけは？

元々、山が好きで山歩きやスキーを楽しんでいましたが、自然の植物に魅せられ、27歳のとき草月流初代家元の勅使河原蒼風の直弟子となりました。

その後、東京で活動を行いつつ、自宅に教室を開きました。過去には迎賓館赤坂離宮のいけ花も家元と手掛けました。

ちの休日の文化活動推進のため、文化庁から要請を受けたのがきっかけです。私自身、伝統文化のいけ花を、子どもたちに伝えていきたいという思いもありました。

こども教室の様子は？

今年は、小学生から高校生まで計35人(うち男子6人)が在籍し、今市中央コミュニティセンターで月2回教室を行っています。

小学1年生から始めて、何年も通っている生徒や、大人になってもいけ花を続け、雅号(草月流の資格)を取った生徒もいます。

長年続けられている秘訣は？

いけ花を伝えていきたいという思いもありますが、やはり子どもたちがかわいく、成長を見るのが楽しみです。それに花をいける際、子どもならではの発想にはいつも驚かされます。私自身「教える」のではなく、「教わる」ことも多くあります。

教室を続けていてうれしかったことは？

以前指導した生徒のお子さんがまた生徒として来てくれたときは本当にうれしかったですね。

いけ花の魅力は？

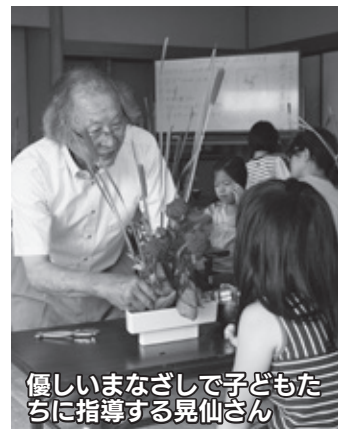
自然のものを使い、人の手で自然を表現することです。同じ花でも一本一本表情が違い、いける度に形が違ってきます。時や場所によってもいけ方は変わります。「型」では決まりません。

今後の抱負は？

いけ花を伝えていくため、いけ花と同じように、子どもたちも「型」で決めつけず、個性を大切に指導することを心掛け、これからも教室を続けていきたいです。

インタビューを終えて

個性を尊重しながらも、作法や礼儀は大切と語る晃仙さん。特にハサミの使い方は作法の基本で、これまでハサミだけがをした生徒はいないそうです。インタビューを受ける表情には、晃仙さんの熱意と優しさが滲み出ていました。



優しいまなざしで子どもたちに指導する晃仙さん

こどもいけ花教室の生徒たちが、10月12日(土)・13日(日)中央公民館で開催の今市文化祭でいけ花を展示します。また、令和2年3月26日(木)～29日(日)杉並木公園ギャラリーで作品展を開催します。詳しくは市文化協会(☎21-5182)へ。